まちの話題から

ひのよーじん……こども夜回り

年末の恒例の「こども夜回り」が行われました。

宮元町会では12月21日に、中央町会では12月25日と26日に行われました。みぞれも降る寒い夜でしたが、こども達の元気な声が町内に響き渡りました。

参加したのは宮元町会は15～16人、中央町会は30人ほどのこども達。小学生が中心ですが、中には昨年に引き続いて参加した中学生もいます。拍子木と提灯を持って、町内を回りました。

こども夜回りは、町会の青年部や小学校の校外担当のお母さんが中心になって呼びかけを行い、年々参加者が増えている行事です。まちの方々のご理解もあり、また、こども達にとってもめったにない体験となっており、人気を集めているようです。

昨年の連続放火の記憶もまだ生々しい年末に、こども達の大きな声の「火の用心」で、火災に対する心構えを新たにされた方も多かったことでしょう。防災意識の向上と共に、青年会の活動への理解を深めてもらう機会となりました。

サバイバル・ワンポイント講座 その10

テントをつくる③

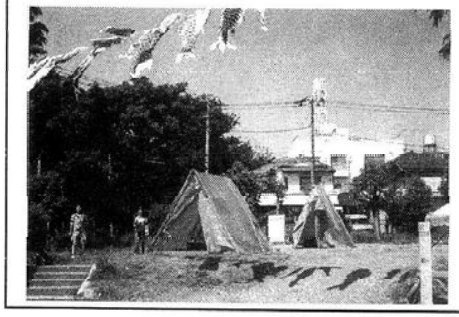
▲▲▲▲ 合掌造りテント ▲▲▲▲

大地震などの災害の時に、自宅が被害を受けて使えなくなってしまうことも、ありえることです。その時に、あり合せの材料で仮設のテントを作ることができると、雨露や寒さをしのぐことができます。テントをつくるシリーズの３回目は合掌造りテントです。昨年の防災まちづくり祭の時に作ったものなので、ご覧になられた方も多いことでしょう。

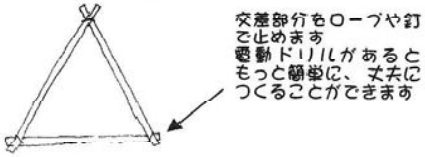
合掌造りは、もっとも基本となるテントの作り方です。三角形に木材などを組み合わせて、丈夫なテントをつくります。骨組みとなる木材は丸太や、間柱や根太などに使われていた角材などがあると作りやすいでしょう。

仮設のテントであっても、合掌造りの建物が並ぶと世界遺産の白川郷の風景にも見えてくるので不思議ですね。

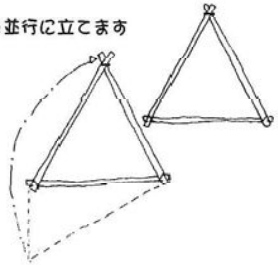
（小野加瑞輝）



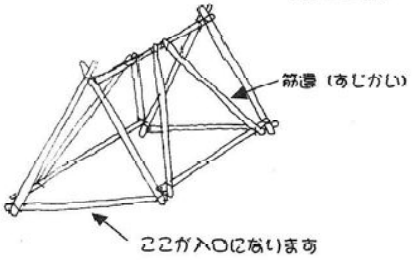
①材料を地面に寝せて三角形に組みます
同じ物を２つ作ります



②２つの三角形を並行に立てます



③別の材料で三角形どうしをつなきます
そこに筋違（あじがい）を入れて安定させます



④これにシートをかけてできあがり

池袋本町 防災まちづくりニュース no. 28
Ikebukuro Honcho Bosai-Machizukuri News
2003年1月17日発行

発行：池袋本町防災まちづくりの会
豊島区住環境整備課防災地区係
問い合わせ先：住環境整備課防災地区係
TEL 03-3981-0489
編集協力：(株) 防災&都市づくり計画室

今年も1月17日を迎えて……阪神・淡路大震災、あるまちの記録から

平成７年１月の阪神・大震災から９年目の冬を迎えます。亡くなられたおよそ6,500名の方を哀悼するとともに、東京では本当に教訓が生かされているのか考えねばならない時期でもあります。

野田北部地区は、神戸市長田区西端にあり、震災前は、空襲を免れた古い棟割長屋が密集し、その中にアーケード商店街が延び、町工場が点在する人口減・活力停滞に悩むまちでした。

震度７の激震で864戸中608戸70%の建物が全壊、大勢が生き埋めになりました。地震直後、東隣のまちから２カ所出火、アーケードに沿って拡がり、東風を受けて午前９時には地区に延焼してきました。午後には風が弱まり、消防隊がかけつけました。地区の真ん中の公園の消火水槽100ｔは20分でなくなりましたが、樹木が火勢を遮りました。水道は使えず、150本のホースで海から送水し、その公園と道路の線で鎮火しました。地区の半分が焼失、死者41名という被害でした。

この地区の人々は頑張りました。建物の下敷きになった人を車のジャッキで助け出す、病院に駆けつけ患者をいったん公園に連れて行き、そこから中学校へ避難させる、トラックで遺体を搬送するなど、力を合わせました。救出は火災の迫る所から優先的にかかりました。地区の人々はいったん公園に来て、様子をみて助け合いながら学校などに再避難しました。

午後４時には駅前にまちの対策本部ができました。翌日から、本部を集会所に移し、被害調査、避難先調査などを始めました。２月になると、商店意識調査、仮設住宅一括申し込みやまちづくりニュースの発行、大工さんによる修繕なども始めます。以後１年間で80回弱の協議会、説明会相談会などを経て、いち早く復興計画がつくられ、１年後には本格的な建築も始まりました。

震災直後の大国公園の様子

専門家やボランティア、行政が力を合わせたのはもちろんですが、この地区の活動がこのようにスムースに進んだのにはわけがあります。実は震災の２年前、平成５年１月にこの地区には「野田北部まちづくり協議会」ができ、なんとかよいまちにしようと集会所を拠点に話し合いを始めました。最初に唯一の公園、大国公園の再整備を提案、ついで道路改善にとりくみ、震災１ヶ月前にちょうど落成式が行なわれたところでした。つまり、まちづくりの活動が始まり、最初の成果、それも火を防ぎ大勢を助けた公園を自分たちでつくったという実績があったのです。

不幸中の幸いですが、まちづくりでできた公園、集会所が、まちの防災や復興に役立っただけでなく、そこで培われた人々の関係や活動ができていたのです。欲をいえば、もっと早くまちづくりを始め、防災にも気づいていたら、被害はもっと防げたかもしれません。

一人一人の大事な住まいを安全にするとともに、まちの大事なものを時間かけてみんなでわいわいやりながら育てていく、それが本当の防災だろうと思う1月17日です。

（吉川　仁）

（参考文献「野田北部の記憶」野田北部まちづくり協議会、この地区は青池憲司監督「記憶のための連作・野田北部・鷹取の人々」（全14巻）で映画・ビデオになっています）

つれづれに一言

防災まちづくりの会と防災ひろばの会では、昨年に引きつづき、防災ひろばの南側の二千平方メートルの敷地に建設する防災センターの検討を行います。昨今の財政事情の悪化から工事着工の予定が立たない中、スタートすることになります。

ところで、昨年は突如としてプレーパーク開設の話が持ち込まれ、二つの会でもその協議のため活動を中断せざるをえませんでした。

プレーパーク、防災ひろば、防災センターのいずれも、地元住民の同意と協力と支援がなければ、長期にわたる良好な運営は不可能です。皆様の意見をお聞きしながら、小島新会長のもと、今年度、私達委員は、着々と、毅然と、防災センターの計画作成に取り組みたいと思います。行政は区民にとって良き支援者であってほしいと思います。

我が街は我々で守り、災害が起きても逃げないですむ街をめざして、しっかりと、ズーッと見つめて……。（市川勇二）

※このニュースは再生紙を利用しています